

令和元年6月24日現在

機関番号：72622

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K03102

研究課題名(和文) モロッコ皮紙契約文書(ヴェラム文書)の国際共同研究

研究課題名(英文) International joint-research on the vellum contract documents in Morocco

研究代表者

原山 隆広 (HARAYAMA, Takahiro)

公益財団法人東洋文庫・研究部・研究員

研究者番号：40513544

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：(公財)東洋文庫が所蔵する皮紙契約文書(ヴェラム文書)という資料について、モロッコおよびチュニジアにて現地調査を実施した。動物の皮からできた紙(皮紙)を素材として用いる点と、土地や物件等の売買契約とそれに関連する事項を一枚の文書にまとめて書き継いでいくという形態・機能面に注目して調査した結果、これらの特徴を示す類似の文書資料群の存在が確認された。また、現地モロッコにて国際研究シンポジウムを開催しアラビア語で報告するなど、研究成果の海外発信にもつとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の成果は、従来看過されてきた皮紙契約文書(ヴェラム文書)について注目して現地調査を実施し、その所蔵状況や形態・機能的特徴などについて比較検討した点に学術的な意義がある。これによって東洋文庫ヴェラム文書の相対的評価が可能になるほか、同文書を通じた当時の社会経済状況や法慣行・法廷システムの実態解明にも繋がる。また、その成果を他のイスラーム地域やヨーロッパ・東アジア等の事例と比較することで、さらなる研究の進展も期待できる。

研究成果の概要(英文)：This project is a joint-research concerning the vellum contract documents held by the Toyo Bunko, Japan. We conducted a field survey in Morocco and Tunisia on these source materials, especially focusing on their material aspect of using the paper made from animal skin, and on their formal / functional aspect of integrating the sales contract of property with its related matters into a single document and transmitting it with adding new deeds. As a result, it turned out that there exist some similar documents sharing the above-mentioned characteristics. In addition, we held an international research symposium in Morocco (27 December 2017, Rabat), and reported our research achievements in Arabic.

研究分野：西アジア前近代政治史

キーワード：ヴェラム(皮紙)文書 契約文書 都市環境 イスラーム法廷 家産管理 木片文書

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

(公財)東洋文庫には、モロッコ古都フェスとメクネスで16～19世紀にかけて作成された、一連の皮紙契約文書（以下「東洋文庫ヴェラム文書」とする、19点）が所蔵されている。イスラーム地域では、不動産取引や相続等に際して契約文書を作成しイスラーム法廷に登録するが、これまで中東や中央アジアに残されているのは紙（植物紙）の契約文書と法廷台帳がほとんどである。皮紙に書かれたものとして世界的に極めて貴重なコレクションである同文書に関しては、所蔵機関である東洋文庫において読解作業が続けられてきた。

その結果、東洋文庫ヴェラム文書は、(1) ある物件の売買契約のさいに、関連する過去の売買や相続にまつわる証書を転記してまとめ一枚の文書に仕立てたものであり、(2) その作成には転記元文書の公証人やイスラーム法廷の裁判官を含めた複数の人物が関与し、(3) 一旦完成した後も物件の所有権が移転したさいに情報が追記され続けた、といった特徴が判明している。一枚の文書から、その背後にある重層的で継続した人々の活動を再構成しうる同文書は、前近代のイスラーム都市社会における取引慣行と司法行政を検討するうえで極めて重要な資料である。

このように、東洋文庫ヴェラム文書の個別資料研究が着実な成果を挙げている一方、これまでの検討作業を通じて、同文書をどのようにモロッコ史ひいてはイスラーム史のなかに位置づけ理解するかという課題も浮上してきた。マクロな視野からこの東洋文庫ヴェラム文書の位置づけを相対化するためには、文書自体の検討と平行して、モロッコおよび周辺諸国において関連資料の調査を実施し、海外研究者との共同研究を進めることが不可欠であり、本研究計画を立案・開始するに至った次第である。

2. 研究の目的

東洋文庫ヴェラム文書について、モロッコなど関連地域での現地調査と連携研究をおこなう。同文書の特徴は、まず何より皮紙を記録媒体として用いることであるが、物件の売買契約とその関連事項を一枚にまとめ、当事者のために売買の有効性と不動産の所有権等を保証する目的で作成された点も注目に値する。

そこで、皮紙という材質的特徴と、関連契約を一枚にまとめた形態的特徴、所有権移転に伴い引き継がれていく機能的特徴に注目して類似文書の所蔵状況を把握・分析し、併せて社会経済史の視点から、各文書に登場する物件や人物について現地調査に基づき検討する。対象地域としては、同文書が作成されたモロッコを第一に想定しているが、必要に応じてチュニジアやエジプトなど周辺諸国も含め、とくに(1)皮紙文書調査、(2)売買契約文書調査(3)東洋文庫ヴェラム文書に関する現地調査、という三つの項目を設定し調査を実施する。

(1)皮紙文書調査：「皮紙」という材質面に注目して、対象地域における皮紙文書の残存状況を調査する。現地図書館（モロッコ国立図書館）等での所蔵調査を実施するのに加えて、個人所蔵や市場に流通する文書類の発掘も含めて全体像把握（数量的規模・地域的分布・機能的分類）を目指す。

(2)売買契約文書調査：物件の売買契約と関連事項（遺産相続他）を一枚にまとめるという東洋文庫ヴェラム文書が有する形態面の特徴に注目して、(1)の機会に併せていわゆる紙媒体も含めた売買契約文書および関連する遺産相続文書の所蔵状況を調査し、その構成や記載内容（対象物件・登場人物など）についての比較検討を試みる。

(3)東洋文庫ヴェラム文書に関する現地調査：同文書が作成された現地（フェス、メクネス）に赴いて、関連分野の専門家の協力をえて現地調査をおこない、文書記載物件や関連事項の検証作業を進める。これによって、当時の都市住民が如何なる人的ネットワークを形成し、どの程度の規模で資産を所有し、それを維持管理していたのか解明することを目指す。

3. 研究の方法

本研究計画は、モロッコおよび周辺諸国での現地海外調査を中心に進められる。各年度においてそれぞれ1～2回ほど調査対象地へ赴いて、上述の(1)図書館や文書館等における皮紙契約文書の所蔵状況調査と、(2)東洋文庫ヴェラム文書が作成されたフェス・メクネスの現地調査を両軸として執り行なう。何れの調査も欧米や現地研究者との連携のもとで効率的に実施するよう留意し、定例研究会において調査結果の分析を順次進めていく。

また並行して、研究期間中にモロッコで国際研究シンポジウムを開催する。調査結果を英語またはアラビア語で報告することで、現地研究者との意見交換を行ない、研究計画の遂行にとって有益な情報・助言を得るようにつとめる。

これらの研究成果については、英語またはアラビア語による学術誌への論文投稿や論叢刊行を通じて海外学界に向けて積極的に発信すると同時に、各種報告や講演を通じて日本国内へも情報還元を進めていく。

4. 研究成果

(1) 海外調査

本研究課題では当初の目的・計画に従って、研究代表者・研究分担者・研究協力者を併せて、計5回（延べ11名）の海外調査を実施した（各調査の概略については下記の通りである）。主にモロッコを対象地域とした他、周辺諸国のうちチュニジアでの調査も実現した。

平成 28(2016)年度

- ①平成 28(2016)年 12 月～平成 29(2017)年 1 月 亀谷学(研究協力者) モロッコ(ラバト・フェス他)
- ②平成 29(2017)年 3 月 吉村武典(研究協力者) チュニジア(チュニス・スース・カイラワン)

平成 29(2017)年度

- ③平成 29(2017)年 12 月 原山隆広(研究代表者) モロッコ(メクネス・ラバト)
- ④平成 29(2017)年 12 月 吉村武典(前述) モロッコ(メクネス・ラバト)
- ⑤平成 29(2017)年 12 月 亀谷学(前述) モロッコ(メクネス・ラバト)
- ⑥平成 29(2017)年 12 月 三浦徹(研究分担者) モロッコ(ラバト)
- ⑦平成 29(2017)年 12 月 佐藤健太郎(研究分担者) モロッコ(ラバト)

平成 30(2018)年度

- ⑧平成 30(2018)年 8 月 原山隆広(前述) モロッコ(ラバト)
- ⑨平成 31(2019)年 3 月 原山隆広(前述) モロッコ(マラケシュ・アガディール・ラバト)
- ⑩平成 31(2019)年 3 月 佐藤健太郎(前述) モロッコ(マラケシュ・アガディール・ラバト)
- ⑪平成 31(2019)年 3 月 吉村武典(前述) モロッコ(マラケシュ・アガディール・ラバト)

これらの調査を通じて明らかになった成果をまとめると次のようになる。

モロッコ国立図書館(ラバト)等にて実施した資料調査の結果、皮紙文書の存在が確認できた(8点・調査には同館が所蔵する皮紙文書のマイクロフィルムを使用)。ただし、当初は有力候補と想定していたフェスの名家ペンズーダ家の資料コレクション中に該当文書が見出されなかったこともあり、数量的には限定的範囲に留まっている。その一方で、モロッコにおける文書資料の保存・管理状況から、前近代の売買契約文書の類は旧所有者の手元で保持され続けている可能性の高いことが明らかとなった。実際に上述の調査においても、個人宅や古物商といった私的領域にて当該物件の売買契約文書や皮紙に記載された婚姻契約文書などの存在が確認されている。これら個人所有の文書を発掘し、どのように研究への利用を推進していくかが課題となる。

チュニジアでの資料調査において、皮紙契約文書を確認しえたのも大きな成果として挙げられる。チュニジア国立文書館(チュニス)に収蔵される8点(調査分128点中)に加えて、(植物)紙媒体の同種文書の存在が判明したほか、スースにおいて個人所有の文書も発見した。それらを東洋文庫ヴェラム文書も含めてモロッコの事例と比較することで、全体像の把握や相対化を進めることができた。とくにチュニジアの文書群は宗教的寄進を扱ったワクフ文書として分類・整理されている点が注目され、今後の研究を進めるうえで重要な示唆を含む。なお、モロッコにおけるワクフ文書資料の悉皆調査は本研究課題中では達成できなかったため、今後も調査を継続していく。

また当初予期しなかった新知見として、モロッコ南部での現地調査を通じて「木片文書」の存在が浮上してきた。これは本研究課題の対象たる皮紙ではないが、(植物)紙以外の媒体に記録された文書資料として注目に値する。現時点で確認できた結果からは、モロッコ国内でもその分布に地域的偏差が存在するように考えられる。これら木片文書の記載内容や皮紙文書との関連性については別途研究を進める。

(2) 国際研究シンポジウム

第二年度目にあたる平成 29(2017)年に、国際研究シンポジウム“al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru'ān Tarīkhiyah Mutaqāṭi'ah” (モロッコと日本：歴史横断的視座)を開催した。“Ribat Al Koutoub”誌および Center for Cross Cultural Learning との共催で、同年 12 月 27 日にラバトのモロッコ国立図書館を会場として行なわれた同シンポジウムにおいて、本研究課題は独立のセッション“Ṣinā'at al-Wathīqah: Taqdīm Majmū' 'Uqūd Raqqīyah Maghribiyah” (資料学の方法：モロッコの皮紙契約文書コレクションの研究)を企画し、原山隆広(研究代表者)・三浦徹(研究分担者)・佐藤健太郎(同)・吉村武典(連携研究者)・亀谷学(同)の5名がこれまでの研究成果についてアラビア語で報告した(各報告の詳細については、5. [学会発表] ④～⑧を参照)。モロッコ側からは海外共同研究者の L. Bouchentouf 氏(ムハンマド5世大学教授)や M. Aafif 氏(同)をはじめとして、'A. al-Sabti 氏(同)、“Ribat Al Koutoub”誌主筆)、'U. al-Mansuri 氏(モロッコ歴史学協会会長)、H. 'Azzab 氏といった多数の現地研究者が参加した。

東洋文庫ヴェラム文書コレクションの存在自体を含めて各報告は現地研究者の関心と呼び、モロッコにおけるヴェラム文書の残存状況や、法的文書全体へのヴェラム文書の位置付けといった問題を巡って議論が展開され、本研究課題の方向性に関しても重要な示唆を得た。

(3) 成果の国際発信

最終年度中の平成 31(2019)年には、上述の国際研究シンポジウムでの報告を元に、本研究課題にて実施した海外調査の結果を反映させて、原山・三浦・佐藤・吉村・亀谷の5名がモロッコのオンライン雑誌“Ribat Al Koutoub”にアラビア語論文を発表し、現地学界への情報発信を進めた(各論文の詳細については、5. [雑誌論文] ①～⑤を参照)。これによって、皮紙契約文書

に関する更なる情報の収集や今後の共同研究に繋がっていくことが期待される。また平成32(2019)年度に刊行予定の東洋文庫欧文論叢 Toyo Bunko Research Library (TBRL), *The Vellum Contract Documents in Morocco in the Sixteenth to Nineteenth Centuries, Part II* 中にて上述の本研究課題の調査成果を英文で発表すべく編集作業を進めている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計7件)

- ① HARAYAMA Takahiro, Taqnīyāt tahrīr al-wathā'iq al-raqqīyah (皮紙文書の作成技法), *Ribat Al Koutoub*, 査読無, 2019. (<http://ribatalkoutoub.com/?p=2901>)
- ② MIURA Toru, 'Uqūd al-'adliyah al-maktūbah 'alá al-raqq (皮紙に記載された法的文書), *Ribat Al Koutoub*, 査読無, 2019. (<http://ribatalkoutoub.com/?p=2882>)
- ③ SATO Kentaro, Wathā'iq raqqīyah: al-ṣiyāghah wa-al-adwār (皮紙文書: 書式と役割), *Ribat Al Koutoub*, 査読無, 2019. (<http://ribatalkoutoub.com/?p=2898>)
- ④ YOSHIMURA Takenori, al-Ashkāl wa-ṭarz al-tawthīq al-'adlī: maqāranah bayna Fās wa-Tūnis (法的文書に関する形式と様式: フェスとチュニスの比較), *Ribat Al Koutoub*, 査読無, 2019. (<http://ribatalkoutoub.com/?p=2920>)
- ⑤ KAMEYA Manabu, al-Arqām al-fāsīyah wa-nuqūd al-mu'āmalāt fī al-wathā'iq al-raqqīyah (皮紙文書で用いられるフェス数字と貨幣について), *Ribat Al Koutoub*, 査読無, 2019. (<http://ribatalkoutoub.com/?p=2903>)
- ⑥ MIURA Toru, A comparative study of contract documents: Ottoman Syria, Qajar Iran, Central Asia, Qin China and Tokugawa Japan, *Legal documents as sources for the history of Muslim societies: studies in honour of Rudolph Peters*, 査読無, 2017, pp. 266-291.
- ⑦ 佐藤 健太郎, 古文書から見る過去の都市空間: モロッコの古都フェスとその郊外, 空間に遊ぶ: 人文科学の空間論 (田山忠行編, 北海道大学出版会), 査読無, 2016, pp. 53-86.

〔学会発表〕(計8件)

- ① 三浦 徹, イスラーム法廷文書にみる契約と裁判, 2018年度後期東洋学講座(公益財団法人東洋文庫), 2018.
- ② 佐藤 健太郎, 東洋文庫所蔵モロッコ皮紙契約文書から見る不動産の売買と相続, 2018年度後期東洋学講座(公益財団法人東洋文庫), 2018.
- ③ 佐藤 健太郎, 16~18世紀モロッコにおける契約文書——東洋文庫所蔵ヴェラム文書を通して, 東洋史研究会大会, 2018.
- ④ HARAYAMA Takahiro, Taqnīyāt tahrīr al-wathā'iq al-raqqīyah (皮紙文書の作成技法), al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru'an Tārīkhīyah Mutaqāṭi'ah, 2017.
- ⑤ MIURA Toru, Wathā'iq 'uqūd al-ruqūq fī Dār al-Kutub al-Sharqīyah bi-Tokyo, wa-mumayyizāt-ha al-farīdah (東洋文庫所蔵の皮紙契約文書: その比類なき特徴), al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru'an Tārīkhīyah Mutaqāṭi'ah, 2017.
- ⑥ SATO Kentaro, Wathā'iq raqqīyah: al-ṣiyāghah wa-al-adwār (皮紙文書: 書式と役割), al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru'an Tārīkhīyah Mutaqāṭi'ah, 2017.
- ⑦ YOSHIMURA Takenori, Maqāranat al-ashkāl wa-al-ṭarz bi-al-tawthīq al-'adlī bayna Fās al-Maghribīyah wa Tūnis (モロッコ・フェスとチュニジアの法的文書に関する形式・様式の比較), al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru'an Tārīkhīyah Mutaqāṭi'ah, 2017.
- ⑧ KAMEYA Manabu, al-Arqām al-fāsīyah wa-nuqūd al-mu'āmalāt fī al-wathā'iq al-raqqīyah (皮紙文書で用いられるフェス数字と貨幣について), al-Maghrib wa-al-Yābān: Ru'an Tārīkhīyah Mutaqāṭi'ah, 2017.

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 三浦 徹

ローマ字氏名: (MIURA, Toru)

所属研究機関名: 公益財団法人東洋文庫

部局名: 研究部

職名: 研究員

研究者番号(8桁): 00199952

研究分担者氏名: 佐藤 健太郎

ローマ字氏名: (SATO, Kentaro)

所属研究機関名：公益財団法人東洋文庫

部局名：研究部

職名：研究員

研究者番号（8桁）：80434372

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：吉村 武典

ローマ字氏名：(YOSHIMURA, Takenori)

研究協力者氏名：亀谷 学

ローマ字氏名：(KAMEYA, Manabu)

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。